

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類			簡易点検
事務事業名	公害健康被害予防事業			シート番号	A 一般事務事業
担当部署名	健康福祉	局	健康	部	保健所 保健医療 課
評価責任者(課長名)				藤川	

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	1	市民の命を守る健康・医療体制の強化	無
	2	事業開始年度	平成 1 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	公害健康被害の補償等に関する法律			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	昭和63年の「公害健康被害の補償等に関する法律」の施行により、国内の公害地域が全面解除されるとともに新規の患者認定は行わないこととなり、代わって、広く一般の市民を対象に、肺疾患の予防や健康の回復を目的とした事業を実施することとなったもの。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか。)	呼吸器疾患相談: 15歳以上の市民 ぜん息児水泳教室: 気管支ぜん息に罹患している3歳以上の未就学児、小学生 ぜん息児健康回復キャンプ: 気管支ぜん息に罹患している小・中学生			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか。)	●呼吸器疾患相談 参加者の慢性閉塞性肺疾患に関する理解を深めるとともに、療養にかかる知識を習得していただくことにより、参加者の健康の回復、増進につなげる。 ●ぜん息児水泳教室及びぜん息児健康回復キャンプ 参加した児童とその家族に、ぜん息に対する正しい知識を習得していただくとともに、「ぜん息を患っていても水泳やキャンプに参加できた」という自信を持つことにより、今後の児童の積極的な活動へのきっかけにしたい。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	●呼吸器疾患相談: 医師による講話、理学療法士による指導、個別の健康相談等を行う。 実施時期: 6月(4回)、9月(4回) ●ぜん息児水泳教室: 療養上有効な水泳訓練を行う。保護者からの、子どものぜん息についての相談に応じる。 実施時期: 5月、7月、10月、1月、3月(各1回) ●ぜん息児健康回復キャンプ: 自然環境の整った場所で合宿生活を送る。 実施時期: 8月(3泊4日)			
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () マックススポーツ株式会社、公益財団法人大阪YMCA				

Ⅲ. 投入量

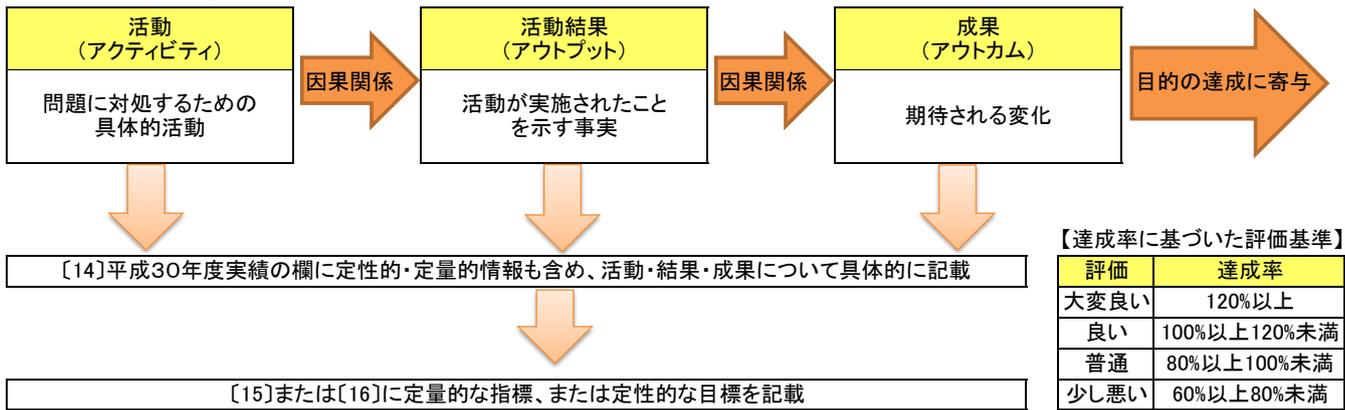
項目		単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
事業コスト	事業費(a)	千円	3,429	4,651	3,266	3,933	
	主な事業費内訳	医師出務報酬	千円	364	336	308	252
		委託料	千円	2,114	2,108	2,226	2,153
		医療機器整備助成補助金	千円	0	1,235	0	0
			千円				
	財源内訳	国・府支出金	千円				
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
		市債	千円				
		その他(負担金等)	千円	3,059	4,651	2,980	2,481
	一般財源	千円	370	0	286	1,452	
	12	人件費(b)	千円	4,100	4,100	4,100	4,050
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	7,529	8,751	7,366	7,983	

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	公害健康被害予防事業	シート番号	11-224
-------	------------	-------	--------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



事業の活動内容や成果

平成30年度実績									
活動実績と成果	14	<p>●呼吸器疾患相談 参加人数 14人 医師による呼吸器についての講義、個別の相談、理学療法士によるリハビリ指導などにより、呼吸器疾患に関する理解を深めるとともに、療養にかかる知識を習得することにより、疾患の予防、健康の回復、増進に寄与している。</p> <p>●ぜん息児水泳教室 参加人数 40人 呼吸器を鍛えるとともに腹式呼吸法を習得させることにより、ぜん息児の健康を回復させ、回復した健康を保持増進させる。事後に実施するアンケート結果では、約90%の参加者が満足しており、参加児童の自信の向上に寄与している。</p> <p>●ぜん息児健康回復キャンプ 参加人数 20人 ぜん息児健康回復キャンプについてはぜん息が回復するようキャンプ期間中に日常生活の療養指導やぜん息体操等による腹式呼吸の実践を行っており、参加後の日常生活の向上に寄与している。事後に実施するアンケート結果では、約90%の参加者が満足しており、参加児童の自信の向上に寄与している。</p>							
		15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			ぜん息児水泳教室保護者アンケートの結果による満足度	%	目標値	100	100	100	100
					実績値	91	91	89	
					達成率	91%	91%	89%	
		評価			普通	普通	普通		
		算出方法・設定根拠など		ぜん息児水泳教室への参加した感想＝「たいへんよかった」、「よかった」の割合					
		16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			ぜん息児健康回復キャンプ保護者アンケートの結果による満足度	%	目標値	100	100	100	100
					実績値	91	91	91	
					達成率	91%	91%	91%	
		評価			普通	普通	普通		
		算出方法・設定根拠など		ぜん息児健康回復キャンプへの参加した感想＝「たいへんよかった」、「よかった」の割合					

業績の分析

	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
17	いずれの事業についても参加者が大幅に増加する状況ではないが、一方でアンケートによる参加者の満足度は高い傾向がある。しかしながら、事業全体的に参加者の減少、固定化が課題となっており、令和元年度については、より多くの対象者が参加しやすくなるよう、ぜん息児水泳教室の日程の変更、ぜん息児健康回復キャンプの実施場所、泊数などを変更する予定であり、より有効な事業へ改善する。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。